



田 森 教 郎さん
(大沢・22歳)

今ダンスにはまっています

★どんな仕事をしていますか
大沢の水産加工の工場に勤めて二年になります。

★仕事で心掛けていることは
無駄な動きを減らすために、次の動作に気を配って効率よく作業するようにしています。

★趣味は何ですか
今はストリートダンスに力を入れていきます。みんなで息を合わせて同じ動きをしたり、音楽

にに合わせて止まったりするのでとても大変ですが、そろって踊ることができたときは最高の気分ですね。五月三日に盛岡のイベントで踊るので、当日に向けて毎晩のように練習しています。

★今度挑戦してみたいことは
スノーボードやサーフィンをやったことがないので、一度はやってみたいと思います。

★今後の抱負は
自分はまだまだ未熟者だと思うので、仕事面でも私生活でも早く一人前になれるように頑張りたいと思います。

イラスト



しばし鑑賞した。また町民の皆さんの作品にも感動し、わたしのつたない趣味に視野を広めてくれた。山田町のますますの発展を祈念しつつ帰路に就いた。

齋藤忠雄 (船越・79歳)

遠き日の思い出の花見

よく、綿糸に糊付けされた手描き国旗が向い家から我が家へと、軒から軒に交互に四十数軒に飾られ、旗が空に浮いて見えた。春風にバタバタと旗の波音を聞き、今でいう歩行者天国。気分ルンルンで遊んだ。世の中は雑食飯時代、前夜に母から花見用にと紫蘇の葉巻き寿司を作ってもらい、故郷の誇りでもある前川善兵衛さんの墓のある堤山に子孫のまち子さんら六人で行った。今のように豪華ではないが、弁当を分け合った楽しい思い出がある。夕方には旗も降ろされ来年の「お八日」まで保管され

友人が訪れ最良の日に

る。あのころはカメラも無く、心の風景として今でも人情あふれる故郷を折々に思い出して心と和ませている昨今である。

菊地サカエ (織笠・70歳)

友人が訪れ最良の日に

「何地より来りし者ぞ」と古書に言ふ
生れ来し曾孫よひたに愛しき
佐藤美栄子 (大沢・84歳)
庭の梅寒さに震へ花開き
佐藤菊實 (荒川・77歳)
公園の花は芽生えて春を待つ
我れ年古りて寂しさ募る
松崎静雄 (船越・?歳)
さつきの空に天高く
鯉のぼり舞う
山崎泰司 (船越・59歳)

みんなのスペース



さかもと まなか ちゃん
(轟木児童館・5歳)

わたしのゆめ

大きくなったら看護師のお仕事がしたいな。やさしい看護師さんになりたいです。

古里への便り②



ふる里山田同郷の会顧問
千葉県八千代市
田代 英雄さん (68歳)
(田の浜出身)

離郷して半世紀、久しく郷里の皆さまにお会いできませんことを大変うれしく存じます。

皆さまのご支援を賜り、同郷の会も早や創立二十年になりました。まさに「光陰矢の如し」と申しましようか。創立当初は、福士彌兵衛元町長をはじめ町の関係者の皆さまがご尽力されました。特に担当の中村丈夫氏のご苦勞には感謝致しております。

わたしは二代目会長を仰せられ、皆さまに支えられながら役目を果たすことができました。当時の記憶に残る思い出などを羅列させていただきます。

一、佐々木良一氏率いる豊間根

野球クラブが東北代表として横浜スタジアムにて善戦されたこと。惜しくも最終回で逆転負けしたとはいえ、あの一糸乱れぬ強さはどのよう

に指導されたのか。陰のご苦勞に敬服致しました。

二、東京大銀座祭りに全国から選ばれて参加した虎舞。世話役の千代川泰久歯科医の「子供たちに夢を持たせたい」との強い思いで実現しました。参加者は夜通しバスで上京し、早朝より山車の組み立てに懸命でした。しかし台風の接近により急きょ中止。関係者の落胆の色は隠れませんでした。日本中で報道されると張り切って猛練習していたものの、その苦勞は水泡に帰しました。しかし子供たちの夢をかなえようと、千代川氏が特別に明治小学校の体育館を

借り、演舞することができました。あの情景は今でも涙々です。

三、ある朝、明治小学校より呼び出されました。学校前にサケがたくさん置いてあるとのこと。虎舞の件のお礼にと岩間海産が贈ったもので、同社の代理として贈呈式を催しました。新聞記者やテレビなどの取材で忙しい一日でした。生のサケを持って歓声を上げる子供たちの気持ち

がわたしにも伝わってきました。校長先生に依頼され、サケの習性などについて説明しました。サケには古里があり四年経つと古里に必ず戻ってくる。皆

さんには田舎がないので、サケの古里、山田町を田舎と思い交流されたらとも助言しました。

われわれには古里が勇気と励ましを与えてくれます。あのたくましい海、ある時は母のように優しい海。古里は感動と夢をくれる人生の支えです。

素晴らしい書画に感動

昭和三十年三月、一町四力村が合併し、新生山田町が誕生し

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

てから五十周年の節目の年を迎え、記念事業の一環として四月八日から三日間、中央公民館特設会場で、朱振南・南奎雲友好書画展が開かれた。またとない名作展を見ようとわたしもその機会に恵まれた。

朱振南先生は台湾の小さな漁

村に生まれ、最新作を山田展のために展示されたという。また南奎雲先生は書道展審査員を務めるなど日本を代表する種市町出身で盛岡市在住の書家であり、親しみを感じ、ついイベントに足が向いた。八十点余りの作品はさすがに大胆な力作ばかりで、